



群馬県コンクール 金賞

こわれた ごはん

太田市立中央小学校 3年 篠崎 雅人

ぼくが一年生の時、ねつがあつて何もたべたくないことがありました。

お昼ごろばあちゃんが「まあちゃん、ごはんだよ、おいしいおかゆができたわよ。」と、ぼくの部屋に来ました。

「うーん、」ぼくはおきてちゃわんの中を、ちょっとのぞくと、びっくり！「あっ、お米が、こわれてる！」

お米はちゃわんの中でぐちゃぐちゃになり、一つぶがいつものお米の三倍くらいになっています。「これは、こわれているんじゃないんだよ。おかゆとって体の具合がよくない時なんかにはたべるといにやさしくて、おいしくてすぐ元気になるんだよ。まあちゃんも、すぐ学校へ行けるよ。」

ぼくは一口おかゆをたべてみました。

「おいしー」

おかずの鯛みそもはじめてたべたものでした。ばあちゃんのいうとおり、ぼくはすぐ、元気になりました。

学校へ行ったらみんなが「まさとだいじょうぶか？」と心配してくれました。

「うん、休んだおかげでおかゆをたべたんだ。鯛みそもね、おいしいんだよ。みんなも、具合が悪い時はおかゆをたべるといいよ！」

「たべたい」「たべたい」とみんながいました。

あれからぼくは、すっかりおかゆをすきになって時々おかゆをつくってもらってねつがない時でもたべています。